



第8回 TCU音楽フェスティバル

新入生熱狂! 音楽フェス来場者最多

2026年度文化団体連合会 本部長
理工学部 機械工学科3年 平田 智大

今年度のTCU音楽フェスティバルも文化団体連合会本部の主催で開催され、多くの新入生にご来場いただきました。軽音団体や放送会など複数の団体が連携し、リハーサル段階から音響・照明・進行の細かな調整を重ねたことで、当日は昨年度の172名を大きく上回る235名が来場し、会場は大きな熱気に包まれました。

今年度は例年以上に広報活動にも力を入れ、スプリングフェスティバル期間中はこれまで出演団体の皆様に宣伝を任せていましたが、本部としてもブース設置やビラ配布を実施したことで、より多くの学生に企画の存在を認知していただけました。また、「途中入退場可能」を明確に打ち出したことで、興味のある団体の演奏を気軽に見に来られる環境づくりにもつながりました。

一方でリハーサルでは、日程の調整や健康診断による音出し制限など運営上の課題も多くありました。しかし、複数回のリハーサルを行ったことで団体間での連携も深まり、本番の円滑な進行に繋がったことは大きな成果です。音楽活動にとどまらず、団体間の協力体制や運営力の向上といった面でも成長を実感できる企画となりました。学生同士が互いの活動を知り、新たにつながりが生まれるなど、多面的な成長を実感できる企画となりました。

最後になりますが、学生支援課並びに運営をサポートしてくださった放送会の皆様、出演団体の皆様の協力により、本イベントを成功させることが出来ました。心から感謝申し上げます。



フレッシュャーズ・キャンプ

都市生活学部 フレッシュャーズキャンプ報告

都市生活学部 都市生活学科 教授 西山 敏樹

2026年4月8日から9日にかけて、都市生活学部のフレッシュャーズキャンプを開催しました。都市生活学部のキャンプは、学部のテーマが都市とその生活であるため、1年のはじめからまちを歩くことを旨としています。初日は、メンターの先輩学生と1年生がグループになり、出かけたまちを観察し、問題点を整理します。そして2日目には、まちを魅力的にするための改善案をグループで発表し、教員との質疑に応じます。入学後すぐに、都市生活学部の洗礼を受けるわけです。今年度は、新入生が小田原市と川越市の二手に分かれて、まちあるきに出かけました。小田原市と川越市は、共に城下町として隆盛を極めたまちで、随所に歴史が残る魅力的なまちです。一方で、観光都市と生活都市の双方の側面を持ち合わせ、その両立が共通課題です。都市研究の世界には、「行きよい街は、住みよい街」という言葉もあります。訪問する都市生活者にも、そこに住む都市生活者にも、快適なまちづくりが重要であることを新入生は体得してくれたと思います。この経験を糧に東京都市大学、また都市生活学部での4年間の勉学に励み「都市研究の都市大」を盛り上げてほしいです。



2日目 グループ発表の様子